

## 図書館には健康・医療・介護情報があります

病気や薬、医療制度や介護情報などを、様々な方法でお調べいただけます

**闘病記** 「闘病記」とは、患者やその家族などが、日々の様子や気持ち、投薬や治療の体験などを綴った手記です。病気に対する不安の解消や心の支えとして、ご利用ください。

### 健康・医療・介護に関する資料

食生活、運動、薬、リハビリ、病気や治療のガイドライン、認知症などについて、分かりやすい本から専門的な本までそろえています。



**雑誌** 「NHK きょうの健康」、「訪問看護と介護」など健康維持・増進に関する雑誌が、寄贈雑誌や病院の広報誌もあわせ約 50 誌あります。

**患者会資料** 中央図書館の「患者会などの情報コーナー」には、約 60 団体が発行している案内パンフレットや病気に関する資料、会報があります。会報では、各団体の活動内容や会員の声に触れることができます。



**パンフレット** 中央図書館では、広島市や医療関係機関が発行した病気や介護に関するチラシ・パンフレットをご覧いただくことができます。(一部配布しています。)

また、「がんと暮らす情報コーナー」には、国立がん研究センターが発行した各種がんについてのパンフレット、広島市のがん診療拠点病院などの案内もあります。



西区図書館に「健康づくりサポートコーナー」、安芸区図書館に「助け合いと健康情報コーナー」があります。広島市立図書館では、正しい健康・医療・介護情報を収集するお手伝いをしています。



中央図書館は、平成 29 年(2017 年)から広島都市学園大学と連携して、「認知症にやさしい図書館」事業と題し、認知症について知り、理解を深めるきっかけとなるよう、図書展示・講座・認知症ブックカフェを行っています。これまで「認知症の予防とリハビリテーション」や「住まいと暮らしの工夫」を取り上げてきましたが、今年度は「認知症の方の内面世界」に焦点をあてます。

9月に予定している図書展示「小説でふれる内面世界」では、広島都市学園大学図書館サークルの学生が選んだ、認知症の人の感じ方や見え方にふれるような小説、介護者の心理を感じる小説を展示します。また、9・10月に「認知症ブックカフェ」を予定しています。

この事業を通して、様々な人が認知症について知る機会となり、認知症の人とその家族だけでなく、地域に暮らす人々が共に支えあい生活しやすくなる環境づくりを目指しています。

# 図書館司書がおすすめるこの1冊！「認知症を理解する」

## 児童書

### 『忘れても好きだよ おばあちゃん！』

ダグマー・H・ミュラー／作  
フェレーナ・バルハウス／絵  
ささき たづこ／訳  
あかね書房 2006年



年を取って一緒に暮らすことになった私の  
おばあちゃんは、よそのおばあちゃんとちょ  
っと違います。聞いたことを覚えていられな  
くて、何でも忘れてしまいます。パパやママ、  
私のことを忘れてしまうこともあります。で  
も、子どもの頃のことはよく覚えています。  
それは、おばあちゃんが「アルツハイマー病」  
という病気だからです。遊びに来た友だちが  
おばあちゃんを見て笑ったり、驚いたりして  
も、私はおばあちゃんの病気のことをきちん  
と説明してあげます。ベッドで一緒に絵本を  
見ながら私を抱きしめてくれるおばあちゃん。  
私はおばあちゃんが大好きです。

病気を正しく理解することの大切さを教え  
てくれる絵本です。

## 一般書

### 『認知症の人と家族を 支えるガイドブック』

家族支援ガイドライン作成  
委員会／監修  
矢吹 知之・長田 久雄・  
加藤 伸司／編著  
ワールドプランニング 2021年



この本は、認知症の人を介護する家族等に  
関わる医療・介護職の人たちのために作成さ  
れました。58問のQ & A形式で、様々な状況  
での支援がポイントを押さえて解説されてい  
ます。

例えば、「専門職が本人や家族に病院の受診  
を勧める際にはどのような助言をするか」と  
いう問いには、本人や家族の状況・気持ちを  
優先しますが、自ら意思決定できるよう受診  
の利点を伝えることや、他機関と連携し安心  
を提供することも重要だと答えています。

専門職の人だけでなく当事者も、悩みを解  
決する手掛かりとしてご活用ください。

## この日は何の日？ ～7月23日はふみの日～



昭和54年(1979年)、当時の郵政省は、手紙に親しむ活動を全国的に展開することを目的に、「ふ」「み」の語呂合わせで、毎月23日を「ふみの日」と決めました。特に、7月は旧暦で「文月(ふみづき)」ということから、毎年7月23日には「ふみの日にちなむ郵便切手」が発行されています。

「文(ふみ)」といえ、登場人物の手紙により展開する書簡体小説を読むのも楽しいものです。書簡体小説は、18世紀にいち早く郵便制度が発達したイギリスで盛んになった小説スタイルで、語り手が物語を進めるのではなく、登場人物の書簡によって構成されています。

日本でも書簡体小説は数多く書かれており、『恋文の技術』(森見登美彦／著 ポプラ社)では、能登半島の小さな実験所に半年間派遣されることになった大学院生の主人公が、文通の腕を磨くため、京都の友人や先輩へ書き送るたくさんの手紙により話が展開します。ユーモラスで軽妙に書き綴られた手紙から、主人公と友人たちの温かい交流や信頼関係が浮かび上がり、手紙ならではのコミュニケーションの醍醐味を味わえる作品です。

ぜひこの機会に手紙に関する様々な本に触れてみてはいかがでしょうか。

# 編集・発行

Hiroshima City Central Library  
広島市立中央図書館  
(公益財団法人 広島市文化財団)  
〒730-0011 広島市中区基町3番1号  
<https://www.library.city.hiroshima.jp/>

代 表 082(222)5542  
本の照会・相談専用 082(222)6440  
F A X 082(222)5545  
(携帯電話 <https://www.library.city.hiroshima.jp/m/>)  
(スマートフォン <https://www.library.city.hiroshima.jp/sp/>)